全国検数労連

847号

〒144-0052 東京都大田区蒲田5-10-2
日港福会館5階
Tel 03(3733)5621　Fax 03(3733)5622
メール rouren@kensu.jp
ホームページ http://www.kensu.jp/
全国検数労働組合連合
書記局



11月18日(水) 15:00~15:30 第3回 検数労連26冬季一時金交渉

両協会、収支状況と回答構築に向けた考え方を披歴。
組合は生活補填、乗率重視、業績配分による格差回答断固反対を主張！

【第3回交渉】

11月18日（水）検数労連第3回26冬季一時金交渉で、組合は両協会に対し今一時金に関係する収支状況、貨物の取り扱い動向、今後の見通し、一時金構築にあたる考え方などを求めて交渉を行いました。

【全日検】

2026年上半期の収支状況について、コンテナ関係や完成自動車などの取り扱いが堅調に推移したものの、青果や鋼材、内航船の放射線量検査業務が減少したことなどが収入部分に影響を及ぼした。しかしながら、料金収受の取り組みを進めている中で一定の剰余を残している状況である。直近10月単月の収支状況も順調に推移しているが、例年、全国的に下期が落ち込む傾向にあることや現在も続けている放射線量検査業務の今後の方向性など不安材料もある。

一時金構築にあたっては、これまでと同様の算式を踏襲した考えでいる。

【日検協会】

今冬季賞与に関わる2026年上期の収益状況について、前半は厳しい見通しでいたが、後半にかけて完成自動車やコンテナ関係が堅調に推移したことや、料金改定等の料金収受対策による増益効果があった。しかしながら、鉄鋼・倉庫・農産物関係の取り扱いが減少した結果、いくつかの支部で計画比減、事業収益についても数支部が計画比を下回る状況となっている。

このような状況下で、世界経済が今後の事業収益に与える影響を懸念しており、引き続き注視していく必要があるが、料金改定をはじめとした収益対策が成果に結びつくよう営業活動を積極的に進め安定した収益確保に努めていく。

一方で、生活面においても諸物価高騰による従業員の家計への負担を支えなければならないという視点で、その点も考慮しながら今冬季賞与の回答を構築するよう鋭意検討を進めている。なお、算式等についてはこれまで同様の考え方を基本に検討を進めている。



【組合主張】

組合は、両協会から上半期の収益状況や取り扱い貨物の動向、今後の見通しや一時金回答に対する考え方などを聞き、次のような主張を行い、次回交渉には組合要求に沿った回答を提示するよう求めました。

①両協会ともに回答方式は従来通りとの考えを示したが、支部間での収入状況は従業員側ではどうしようもない状況にあるし、諸物価高騰の影響は全国どこでも同じであることからも格差のない回答の構築を求める。

②現在、離職者が増えているなかで、今いる従業員が将来的に安心して働き続けられる一時金、いわゆる組合要求に沿った一時金回答の提示を求める。

③両協会の従業員の生活は諸物価高騰によって厳しい状況が続いている。そのようななか、経団連の一時金集計を見ても大手企業の今一時金は平均で100万円を超えた過去最高額の回答が提示されている。その他民間主要企業でも3年連続で過去最高額の回答が相次いでいる。

そのようなかで、現場で働く組合員が他業種の大幅引き上げ基調から乖離した回答は受け入れられない。また、組合としては一時金は単なる業績の配分といった位置付けとは考えていない。一時金は諸物価高騰から従業員を守る保障と考えていることからも、労働組合の要求に沿った回答の構築は不可欠である。

④両協会の説明を聞いたうえでは今冬季一時金はこれまでにない回答が出されるものと期待している。そのうえで、やはり全国的に重視していることは両協会のアルファ回答（業績手当・調整加算）にある。

組合としては、アルファ回答を求めていないのと同時にアルファ回答による支部間格差は不信感を招きかねないと考えている。その点からもやはり組合要求に沿った乗率重視の回答を求める。

いま、港湾では急速に自動化・機械化が推し進められている。

このように職場環境が大きく変わろうとしているなかで、日夜現場で働いている組合員は、検数の職域を守るため、日々業務に奮闘している。

両協会においては、組合員の労苦に応える義務があると同時に、将来にわたって安心して働き続けられる環境整備のためにも今一時金では組合要求に沿った回答の提示を求める。

現場で働く組合員は次回交渉（組合の有額回答指定日）に満足のいく回答が提示されることを期待していることを付け加えておく。

次回交渉　11月25日（水）15時～　第4回検数労連26冬季一時金交渉

次回交渉は労組要求の有額回答指定日！
各地域闘争委員会及び組合員は次回交渉に注目せよ！